

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成20年10～12月期

【調査結果のポイント】

・中小企業の景況感は前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも、7期連続マイナス幅が拡大、10ポイント以上低下した。(1、2ページ参照)

・全業種の「売上DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれもマイナス幅が拡大した。特に「今期の売上水準DI」は▲51.6(前期比▲9.6ポイント)となり、7期連続でマイナス幅が拡大し、極めて低い水準となった。(3、4ページ参照)

○調査項目	1. 業況	: 1ページ
	2. 売上	: 3ページ
	3. 採算(経常利益)	: 5ページ
	4. 資金繰り	: 7ページ
	5. 民間金融機関の貸出姿勢	: 9ページ

【調査の概要】

○調査期間：平成20年11月11日～11月17日

○調査対象：東京23区内の中小企業2,378社

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

○回答数：939社(回答率39.5%)

※有効回答企業の業種別構成

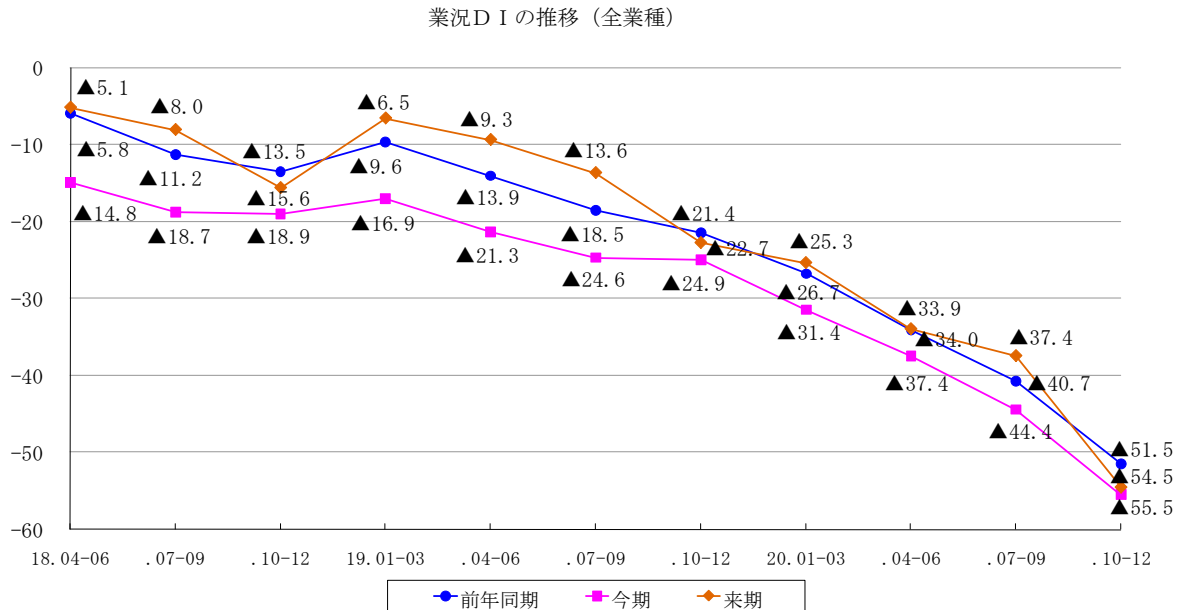
・製造業 255社(27.2%)	・建設業 117社(12.5%)	・小売業 135社(14.4%)
・卸売業 142社(15.1%)	・サービス業 290社(30.9%)	

平成20年12月

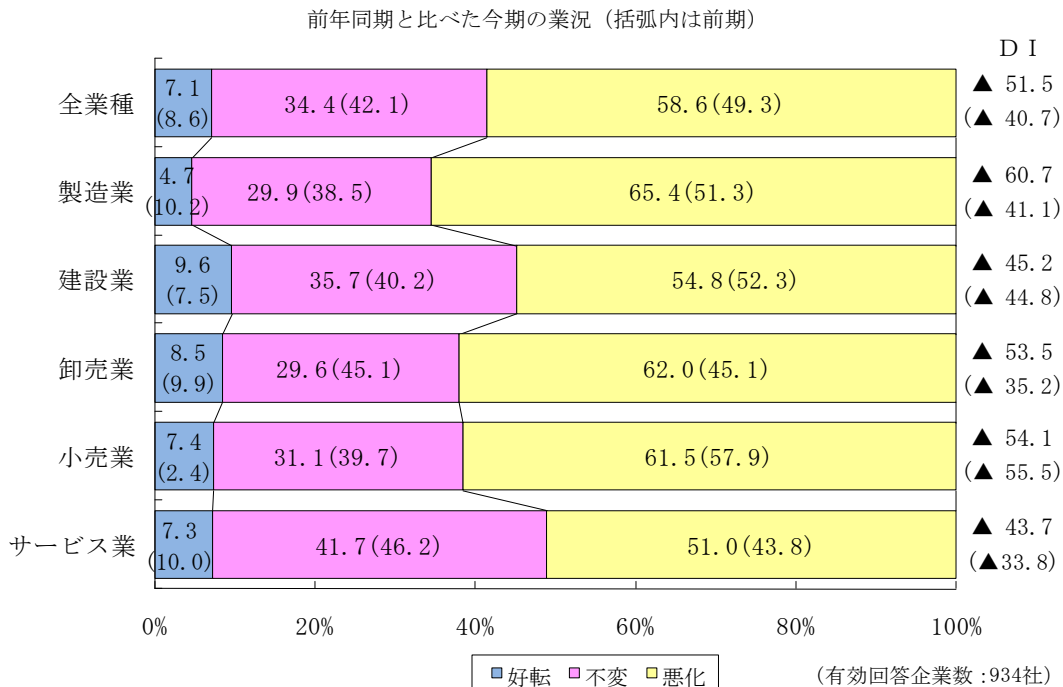
東京商工会議所 中小企業部

1. 業況

○全業種の「業況DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも、7期連続でマイナス幅が拡大、10ポイント以上低下した。

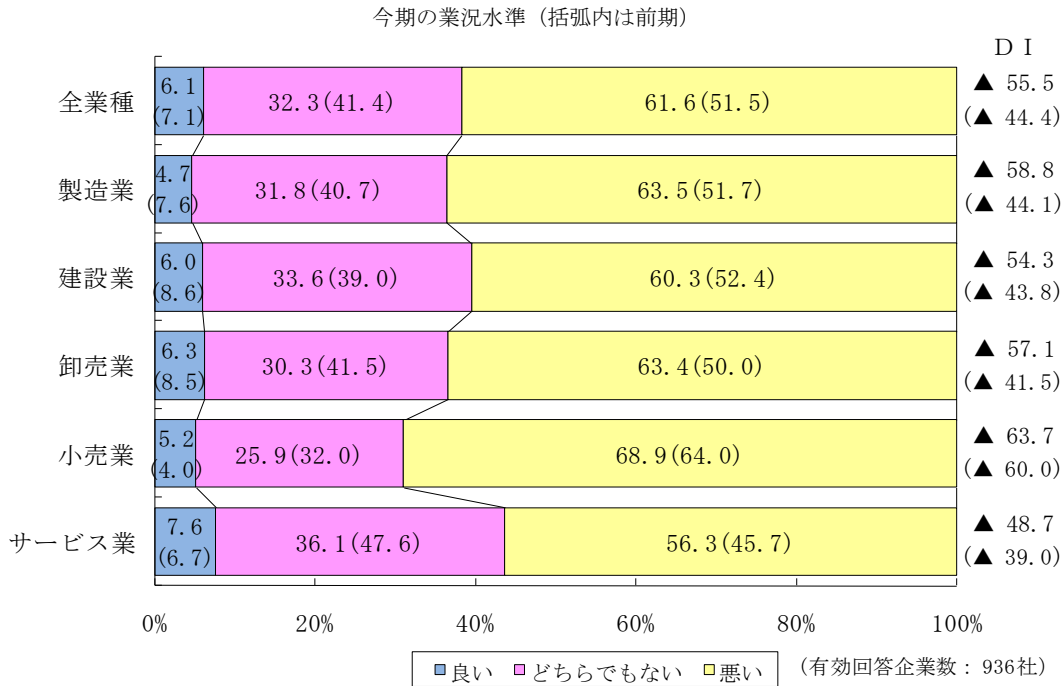


【質問1】前年同期（平成19年10～12月期）と比べた今期（平成20年10～12月期）の業況（自社）はどうですか。



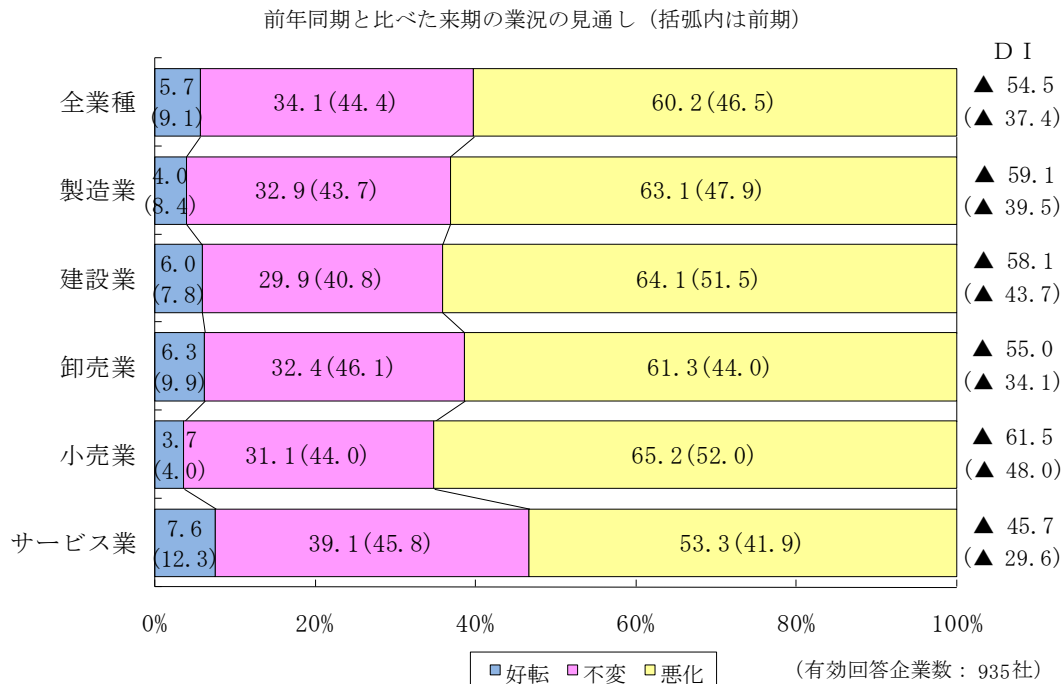
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の業況DI」は▲51.5（前期比▲10.8ポイント）となり、7期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・小売業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に製造業が▲60.7と極めて低い水準となった。また卸売業が▲53.5（前期比▲18.3ポイント）と大幅にマイナス幅が拡大した。

【質問2】 今期（平成20年10～12月）の業況（自社）水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の業況水準DI」は▲55.5（前期比▲11.1ポイント）となり、7期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に小売業は「悪い」と回答した企業が68.9%にのぼり、▲63.7（前期比▲3.7ポイント）と極めて低い水準となった。また、製造業が▲58.8（前期比▲14.7ポイント）となりマイナス幅が大きく拡大した。

【質問3】 前年同期（平成20年1～3月期）と比べた来期（平成21年1～3月期）の業況（自社）の見通しはどうか。

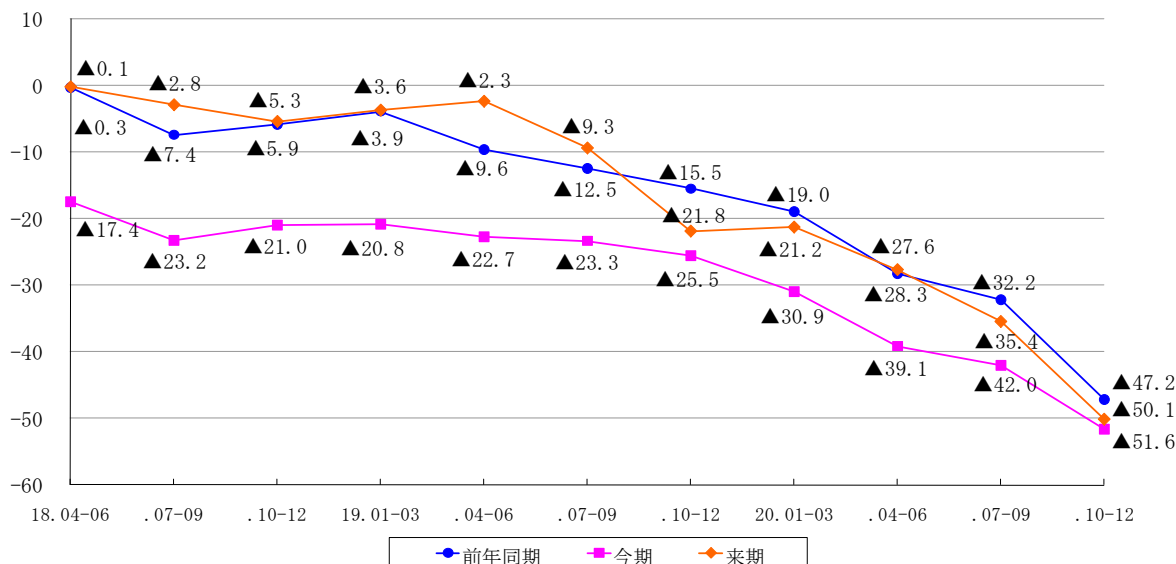


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の見通しDI」は▲54.5（前期比▲17.1ポイント）となり、7期連続かつ、大幅にマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に小売業が▲61.5（前期比▲13.5ポイント）、製造業が▲59.1（前期比▲19.6ポイント）と極めて低い水準となった。

2. 売上

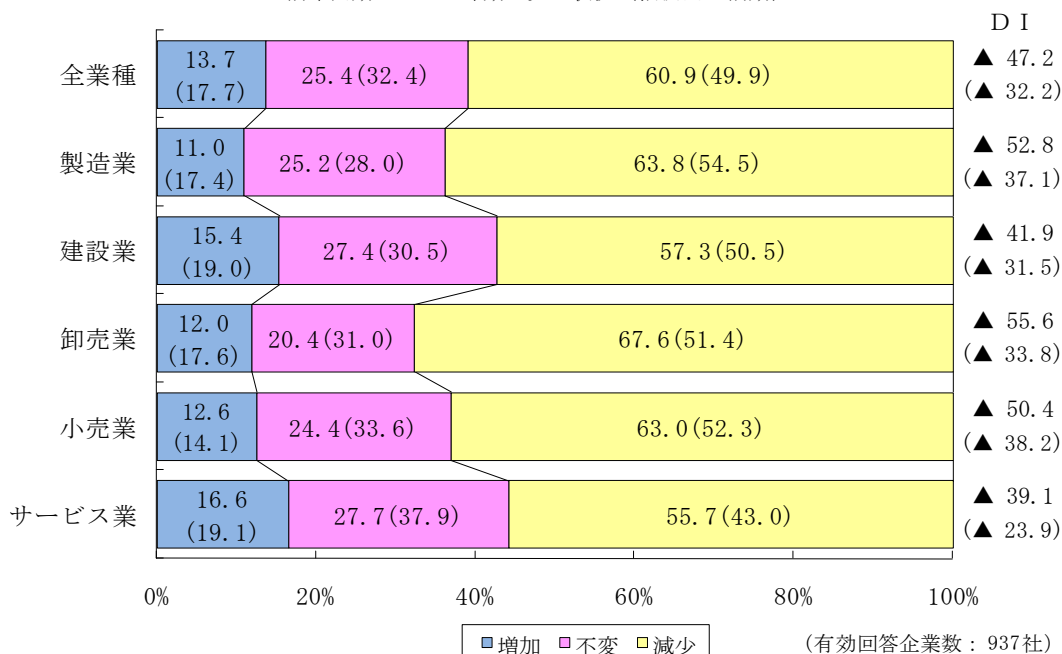
○全業種の「売上DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも、3期連続でマイナス幅が拡大した。特に「今期の売上水準DI」は▲51.6（前期比▲9.6ポイント）となり、7期連続でマイナス幅が拡大し、極めて低い水準となった。

売上DIの推移（全業種）



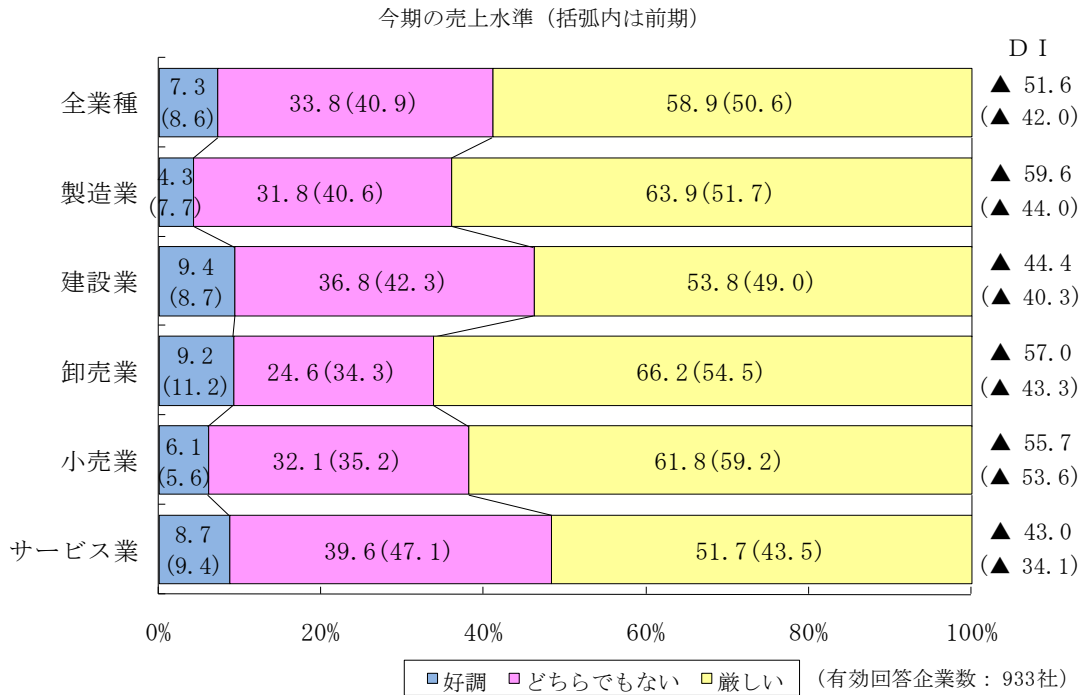
【質問4】前年同期（平成19年10～12月期）と比べた今期（平成20年10～12月期）の売上状況はどうか。

前年同期と比べた今期の売上状況（括弧内は前期）



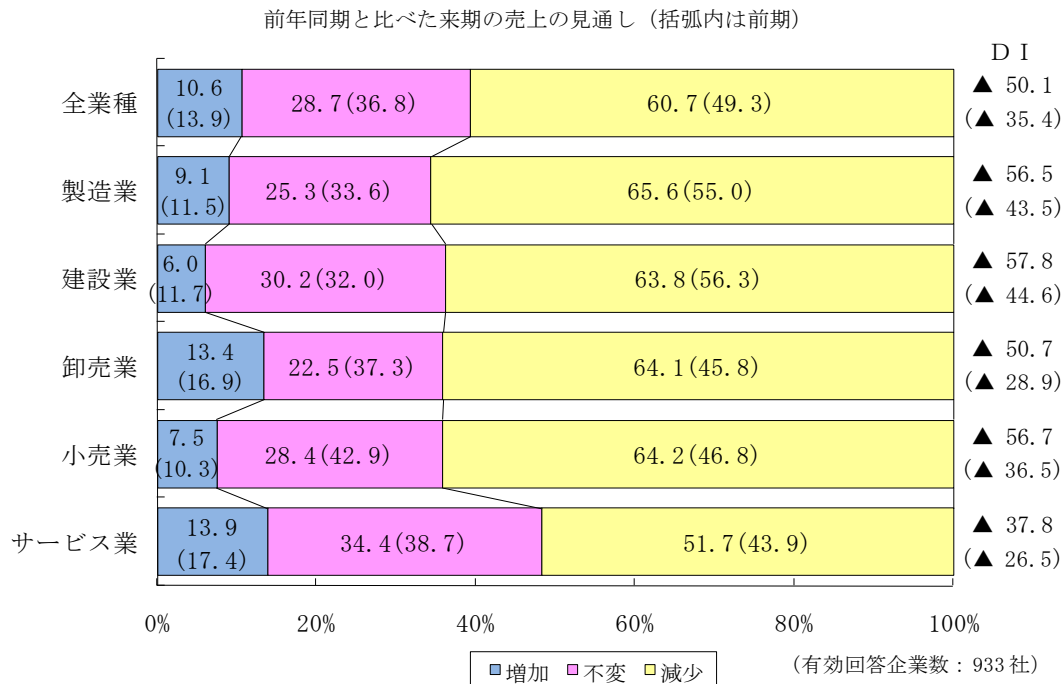
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の売上DI」は▲47.2（前期比▲15.0ポイント）となり、7期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に卸売業が▲55.6（前期比▲21.8ポイント）と大幅にマイナス幅が拡大。また、製造業が▲52.8（前期比▲15.7ポイント）、小売業が▲50.4（前期比▲12.2ポイント）とマイナス50ポイントを超えた。

【質問5】 今期（平成20年10～12月期）の売上水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の売上水準DI」は▲51.6（前期比▲9.6ポイント）となり、7期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種においてマイナス幅が拡大した。特に製造業が▲59.6（前期比▲15.6ポイント）と大幅にマイナス幅が拡大。また、卸売業が▲57.0（前期比▲13.7ポイント）、小売業が▲55.7（前期比▲2.1ポイント）とマイナス50ポイントを超えた。

【質問6】 前年同期（平成20年1～3月期）と比べた来期（平成21年1～3月期）の売上の見通しはどうか。

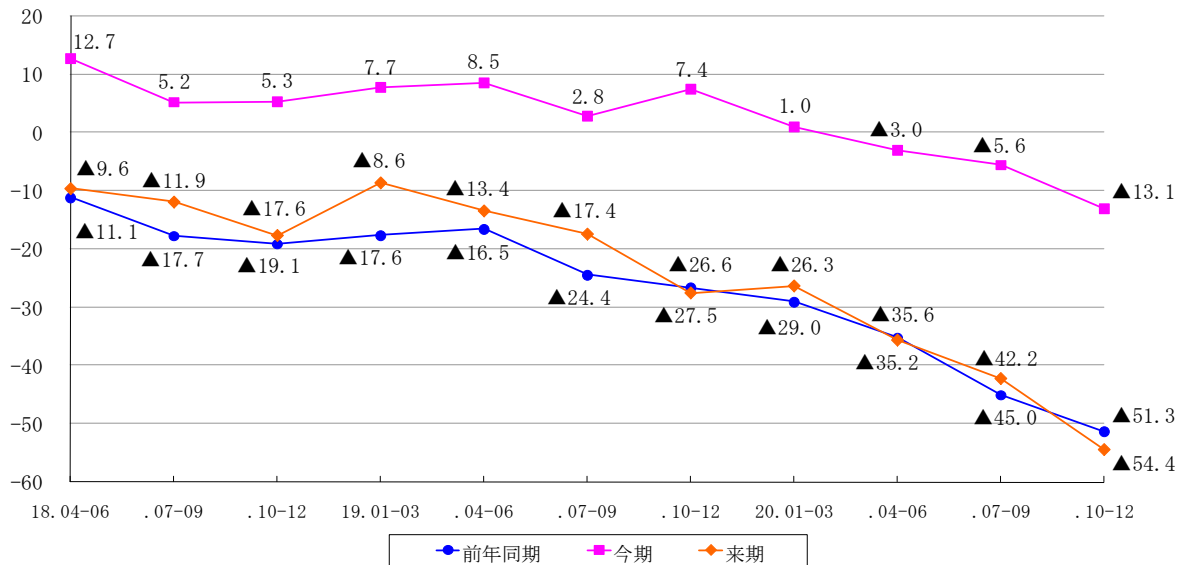


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の売上見通しDI」は▲50.1（前期比▲14.7ポイント）となり、3期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種においてマイナス幅が拡大した。サービス業を除いた全ての業種がマイナス50ポイントを超え、来期見通しの厳しさを示した。

3. 採算（経常利益）

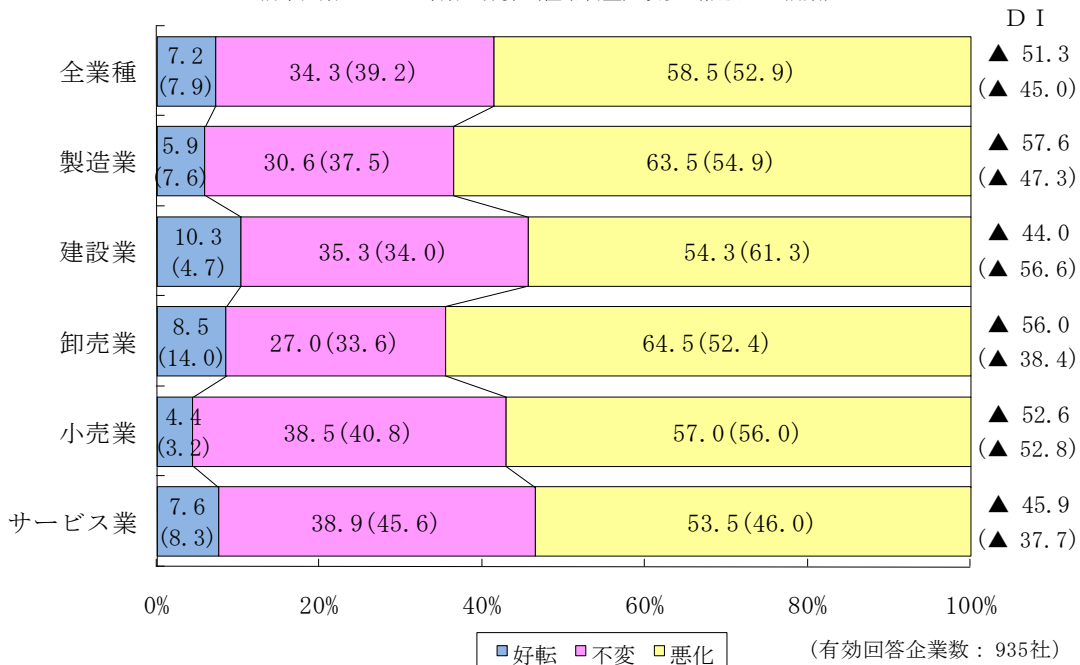
○全業種の「採算DI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれも、3期連続でマイナス幅が拡大した。特に「前年同期と比べた来期の採算DI」は▲54.4（前期比▲12.2ポイント）となり、大幅にマイナス幅が拡大した。

採算DIの推移（全業種）



【質問7】前年同期（平成19年10～12月期）と比べた今期（平成20年10～12月期）の採算（経常利益）状況はどうか。

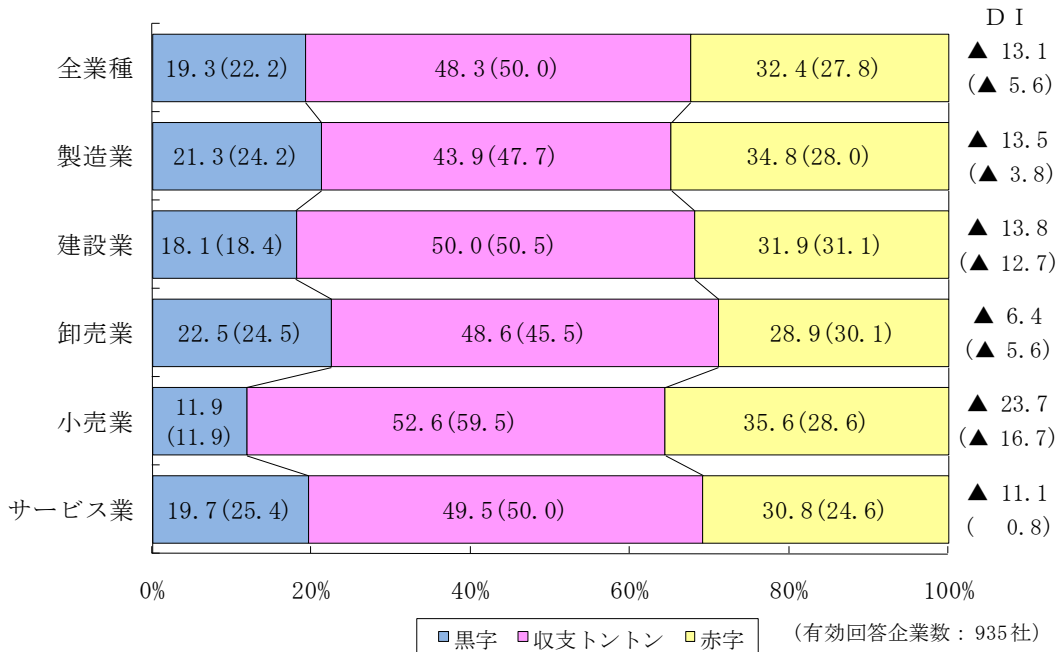
前年同期と比べた今期の採算（経常利益）状況（括弧内は前期）



- ・全業種の「前年同期と比べた今期の採算DI」は▲51.3（前期比▲6.3ポイント）となり、6期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・業種別でみると、製造業、卸売業が10ポイント以上マイナス幅が拡大した。また製造業、卸売業、小売業がマイナス50ポイントを超えた。一方、建設業は▲44.0（前期比+12.6ポイント）とマイナス幅が縮小したものの、依然として低水準である。

【質問8】 今期（平成20年10～12月）の採算（経常利益）水準はどうか。

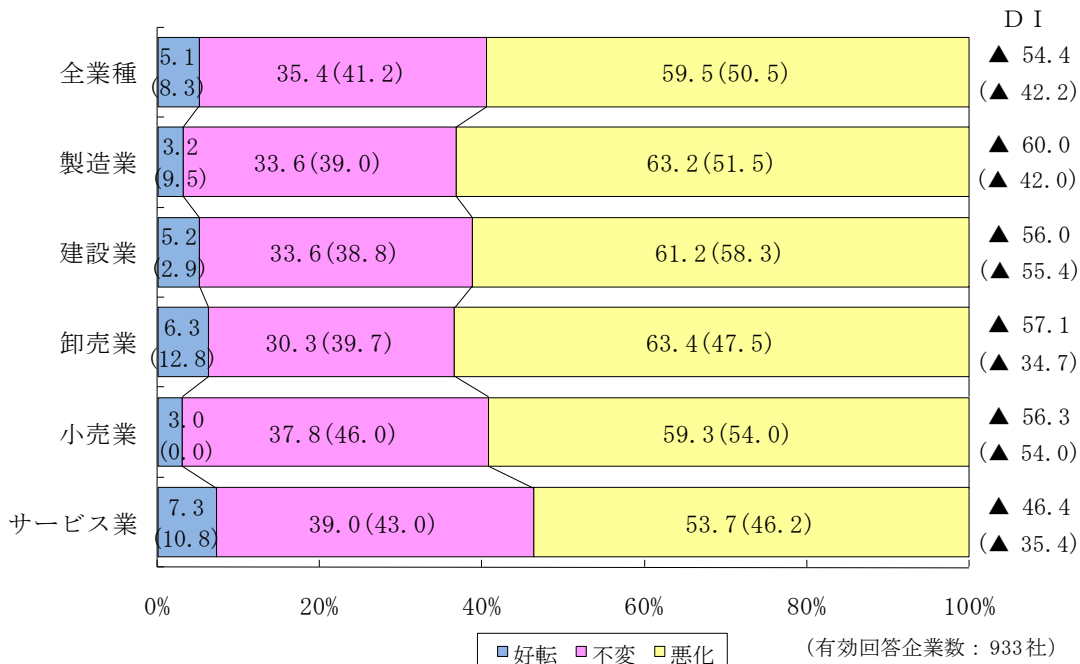
今期の採算（経常利益）水準（括弧内は前期）



- ・全業種の「今期の採算水準DI」は▲13.1（前期比▲7.5ポイント）と4期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種においてマイナス幅が拡大した。業種別でみると、サービス業が▲11.1（前期比▲11.9ポイント）とマイナスに転じた。小売業が▲23.7（前期比▲7.0ポイント）と低い水準になっている。

【質問9】 前年同期（平成20年1～3月期）と比べた来期（平成21年1～3月期）の採算（経常利益）の見通しはどうか。

前年同期と比べた来期の採算（経常利益）の見通し（括弧内は前期）

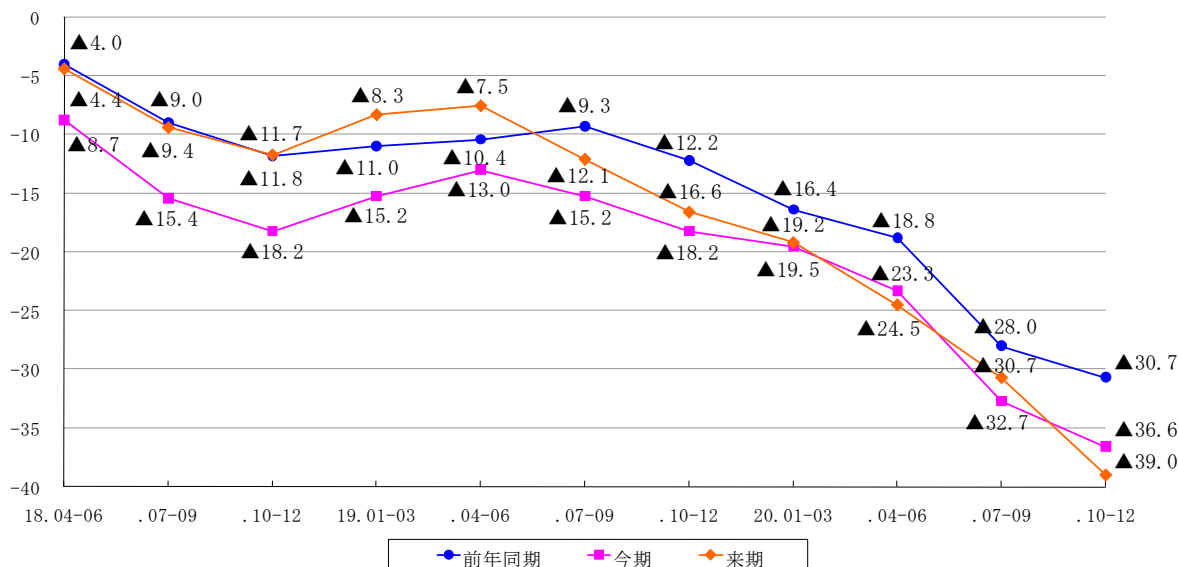


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の採算見通しDI」は▲54.4（前期比▲12.2ポイント）となり、大幅にマイナス幅が拡大した。
- ・全ての業種でマイナス幅が拡大した。サービス業を除く全業種がマイナス50ポイントを超えた。特に製造業が▲60.0（前期比▲18.0ポイント）と業種別で最も低い水準となった。

4. 資金繰り

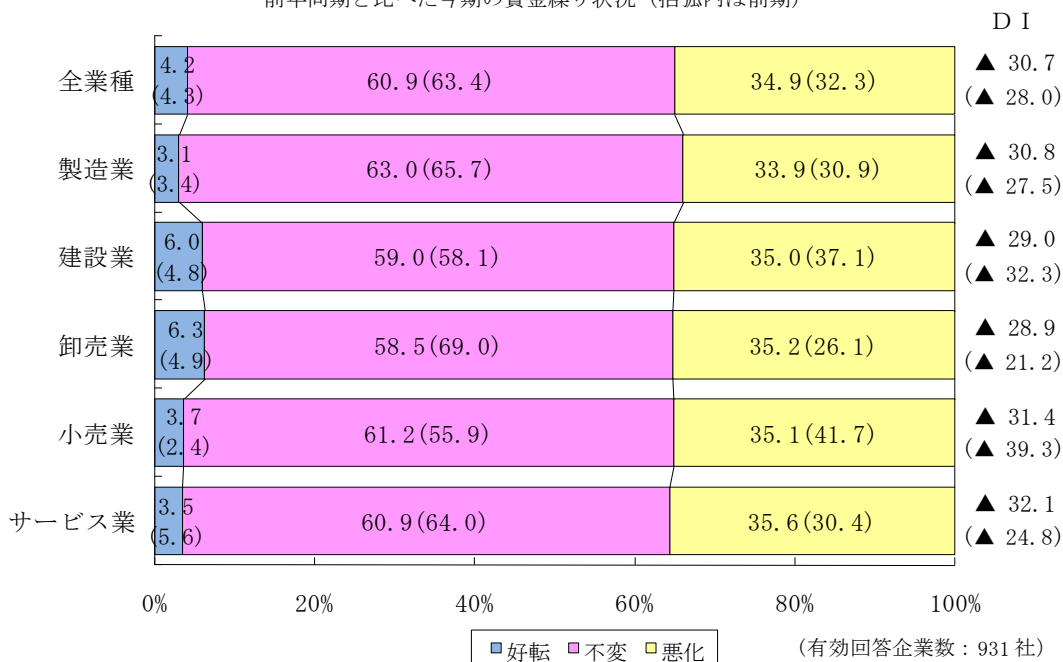
○全業種の「資金繰りDI」は、前年同期比、今期水準、来期見通しのいずれもマイナス幅が拡大した。特に「来期の資金繰り水準DI」は▲39.0（前期比▲8.3ポイント）となり、6期連続でマイナス幅が拡大した。

資金繰りDIの推移（全業種）



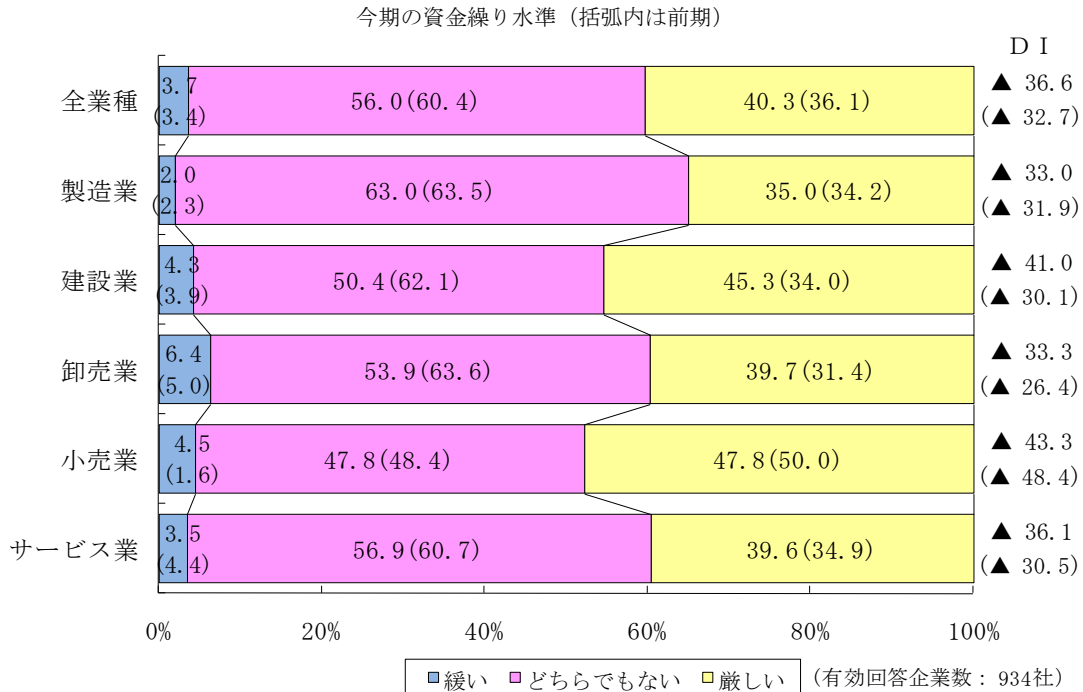
【質問10】前年同期（平成19年10～12月期）と比べた今期（平成20年10～12月期）の資金繰り状況はどうか。

前年同期と比べた今期の資金繰り状況（括弧内は前期）



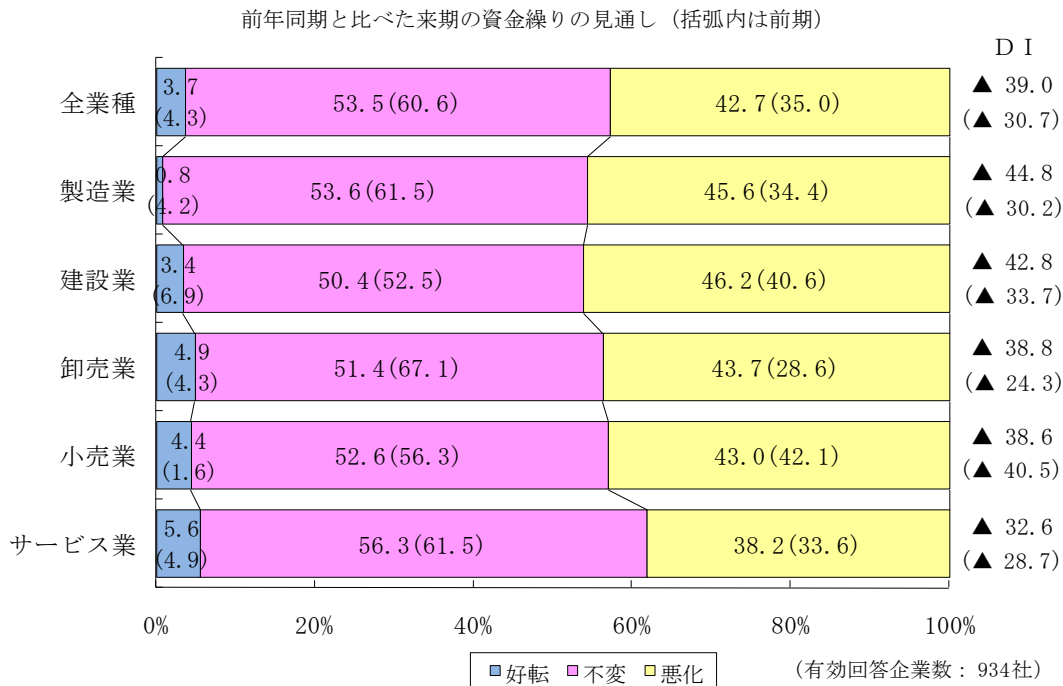
- ・全業種の「前年同期と比べた今期の資金繰り水準DI」は▲30.7（前期比▲2.7ポイント）となり、5期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・業種別にみると、製造業、卸売業、サービス業でマイナス幅が拡大。建設業、小売業のマイナス幅が縮小した。

【質問 1 1】 今期（平成 20 年 10～12 月期）の資金繰り水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の資金繰り水準 DI」は▲36.6（前期比▲3.9 ポイント）となり、6 期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・小売業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。小売業は▲43.3（前期比+5.1 ポイント）とマイナス幅が縮小したものの、業種別で最も低い水準にとどまっている。建設業が▲41.0（前期比▲10.9 ポイント）と大幅にマイナス幅が拡大した。

【質問 1 2】 前年同期（平成 20 年 1～3 月期）と比べた来期（平成 21 年 1～3 月期）の資金繰りの見通しはどうか。

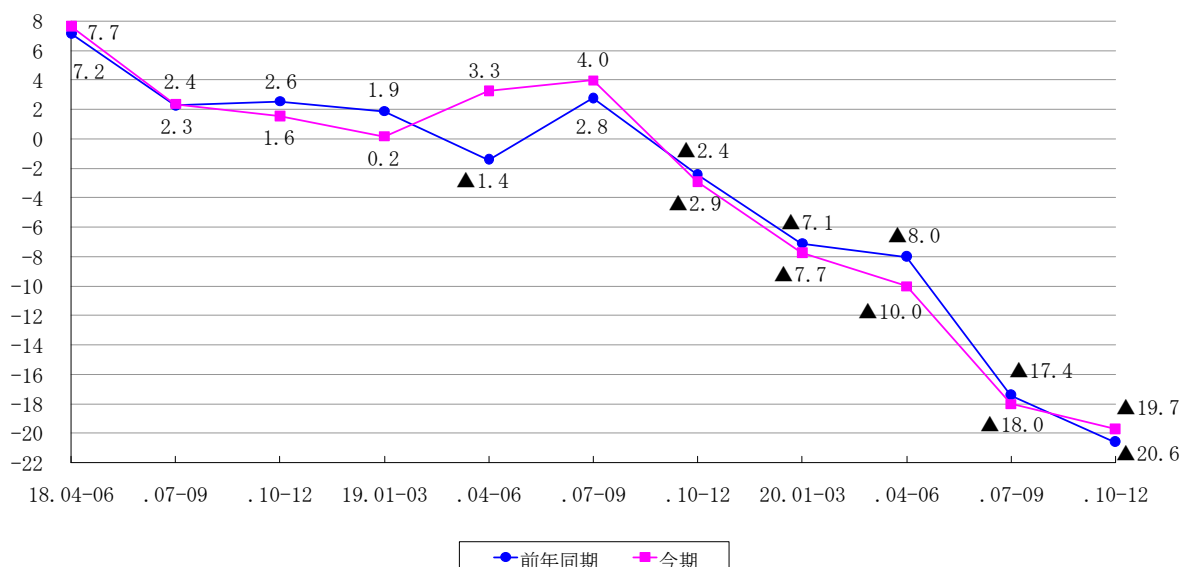


- ・全業種の「前年同期と比べた来期の資金繰り見通し DI」は▲39.0（前期比▲8.3 ポイント）となり、6 期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・小売業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。特に製造業と卸売業は 10 ポイント以上マイナス幅が拡大した。

5. 民間金融機関の貸出姿勢

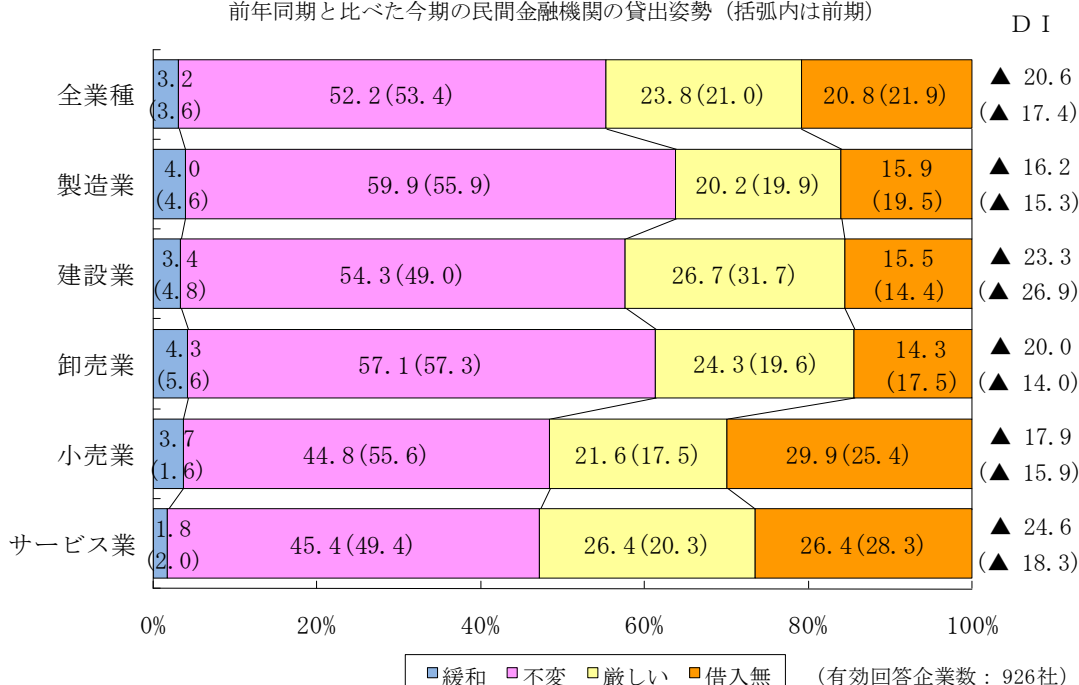
○全業種の「民間金融機関の貸出姿勢DI」は、前年同期比、今期水準ともに、5期連続でマイナス幅が拡大した。

貸出姿勢DIの推移（全業種）



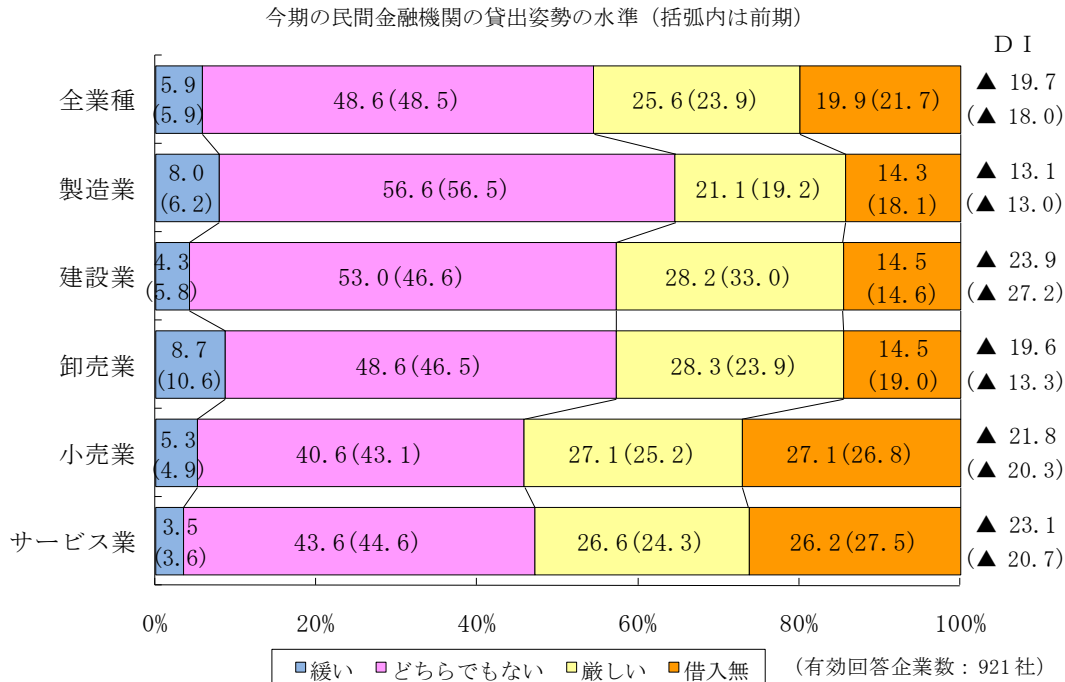
【質問13】前年同期（平成19年10～12月期）と比べて、今期（平成20年10～12月期）の民間金融機関の貸出姿勢は、変化がありましたか。

前年同期と比べた今期の民間金融機関の貸出姿勢（括弧内は前期）



- ・全業種の「前年同期と比べた今期の民間金融機関の貸出姿勢DI」は▲20.6（前期比▲3.2ポイント）となり、5期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・建設業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。建設業は▲23.3（前期比+3.6ポイント）とマイナス幅が縮小したものの、低い水準にとどまっている。サービス業が▲24.6（前期比▲6.3ポイント）とマイナス幅が拡大し、最も低い水準となった。

【質問14】 今期（平成20年10～12月期）の民間金融機関の貸出姿勢の水準をどのように感じますか。



- ・全業種の「今期の民間金融機関の貸出姿勢DI」は▲19.7（前期比▲1.7ポイント）となり、5期連続でマイナス幅が拡大した。
- ・建設業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。建設業は▲23.9（前期比+3.3ポイント）とマイナス幅が縮小したものの、最も低い水準にとどまっている。

- ※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」とする企業の割合から、「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」とする企業の割合を差し引いた値を表す。
- ※ 本集計結果における前期とは、平成20年7月～9月期調査を表す。
- ※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。
- ※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。